

東和薬品株式会社

2027年3月期第1四半期 決算説明会

【概要】

日時:2026年8月7日(金)14:00~15:00

登壇者:常務取締役 竹安 正顕

取締役 國分 俊和

取締役 中村 豪之

執行役員 経理財務本部長 畑上 史朗

執行役員 営業本部長 森川 正路

【決算説明スクリプト】

※目次や参考資料など、ご説明していないスライドは省略しています。

2027年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2026年8月
(証券コード:4553)

こころの薬を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。
© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO.,LTD. All Rights Reserved.



本日は、お忙しいところ ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
東和薬品の國分でございます。

はじめに、7月28日に発生した「令和8年熊本地震」により、
お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、
被災されたすべての皆さまに心よりお見舞い申し上げます。
被災地域の皆さまの安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

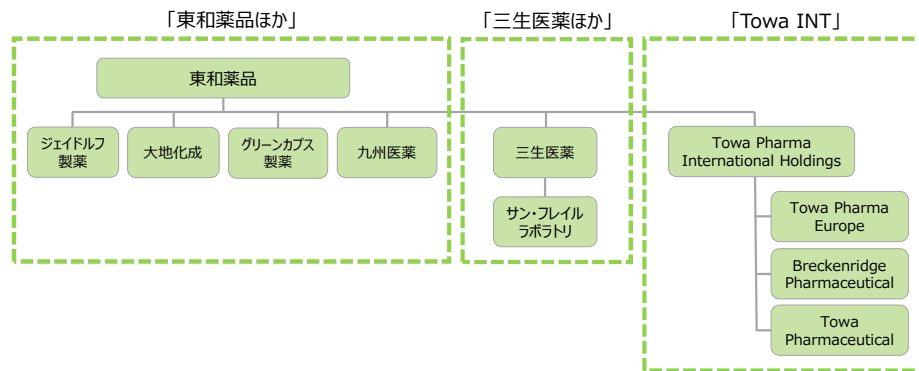
当社においては現時点での人的被害はなく、
通常の製造および営業販売活動を行っております。

それでは私から
“2027年3月期第1四半期 決算補足説明資料”に沿って、
ご説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

決算開示資料について

注意事項

- 本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして、東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、三生医薬、サン・フレイルラボラトリを「三生医薬ほか」と表記しております。また、海外セグメントのTowa Pharma International Holdingsにつきまして、「Towa INT」と表記しております。



それでは、スライド1ページをご覧ください。
ご説明に先立ちまして、
当第1四半期の決算開示内容の前提について
ご説明いたします。

本資料内では、国内セグメントの内訳につきまして
東和薬品、ジェイドルフ製薬、大地化成、
グリーンカプス製薬、九州医薬を「東和薬品ほか」と表記し、
三生医薬、サン・フレイルラボラトリを「三生医薬ほか」と表記しております。

また、海外セグメントの
トーワ・ファーマ・インターナショナル・ホールディングス及びその子会社につきましては、
「トーワ アイ エヌ ティー」と表記しております。

2027年3月期第1四半期 決算概要（連結）

- 前年同期比：売上高・営業利益は、東和薬品ほかにおいて販売数量・単価がともに伸びたことと、Towa INTにおいて欧州BtoCおよび欧州BtoBが伸長したことにより、三生医薬ほかの業績悪化を補い、増収増益
- 計画比：売上高は、三生医薬ほかの進捗遅れをTowa INTが補い、ほぼ計画通りの進捗
営業利益は、東和薬品ほかにおいて販管費の費消が遅れたこともあり、計画通りの進捗
- 経常利益：デリバティブ評価益を約14億円計上したことにより、増益
(前年同期はデリバティブ評価損を約14億円計上)

(単位：百万円，%)

	27/3 1Q実績				26/3 1Q実績		27/3 上半期計画		
	金額	対売上 高比率	前年同期 増減	前年 同期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	進捗率
売上高	71,380	100.0	+ 6,230	+ 9.6	65,149	100.0	145,700	100.0	49.0
売上総利益	26,099	36.6	+ 2,424	+ 10.2	23,674	36.3	53,700	36.9	48.6
営業利益	6,519	9.1	+ 1,312	+ 25.2	5,206	8.0	12,700	8.7	51.3
経常利益	7,941	11.1	+ 3,988	+ 100.9	3,953	6.1	11,700	8.0	67.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,531	7.7	+ 3,017	+ 120.1	2,513	3.9	8,100	5.6	68.3

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

4

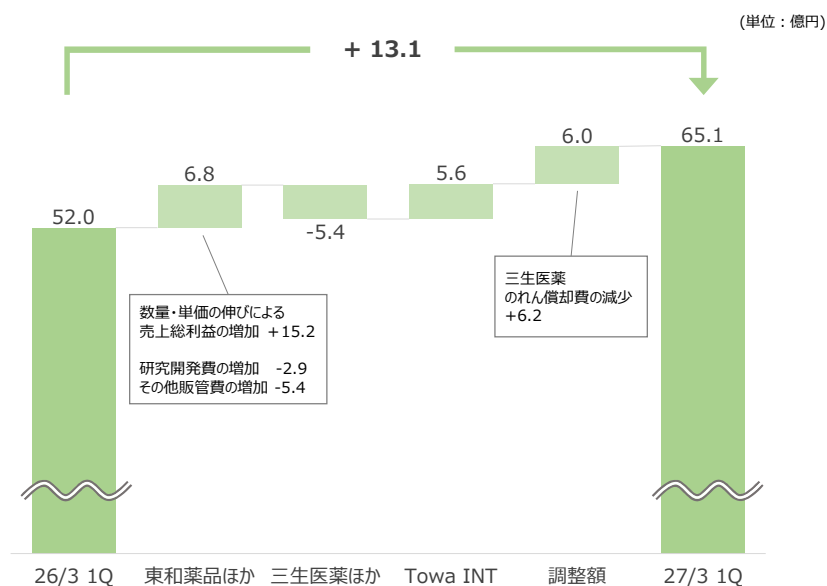
続きまして、スライド4ページをご覧ください。
連結の決算概要について、ご説明いたします。

連結売上高および連結営業利益の前年同期比較について、
「東和薬品ほか」で販売数量及び単価が伸長したことと、
「Towa INT」で欧州がBtoC・BtoBともに伸長したことにより、
「三生医薬ほか」の業績悪化を補い、
売上高は約713億円と前年同期比9.6%の増収、
営業利益は約65億円と前年同期比25.2%の増益となりました。

計画との比較について、
売上高は「三生医薬ほか」の進捗遅れをTowa INTが補い、ほぼ計画通りの進捗、
営業利益は「東和薬品ほか」で販管費の費消が遅れたこともあり、
計画通りの進捗となりました。

連結経常利益はデリバティブ評価益を約14億円計上したことにより、増益となりました。

2027年3月期第1四半期 営業利益の増減要因



スライド5ページをご覧ください。
連結営業利益の増減要因について、ご説明いたします。

「東和薬品ほか」において、
販売数量および単価が伸長したことにより売上総利益が増加したことと、
「三生医薬」ののれん償却費が減少したことにより、
前年同期比約13.1億円の増益となりました。

2027年3月期第1四半期 決算概要（東和薬品ほか）

- 前年同期比：売上高・セグメント利益は、生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したこと、セールスマックスが改善して単価も上昇したことにより、増収増益
- 計画比：売上高は、追補品の拡売が想定よりも進まなかったことにより、若干低調に推移
セグメント利益は、研究開発費等の販管費の費消が遅れたことにより、想定よりも増加

(単位：百万円, %)

	27/3 1Q実績				26/3 1Q実績		27/3 上半期計画		
	金額	対売上高比率	前年同期増減	前年同期比	金額	対売上高比率	金額	対売上高比率	進捗率
売上高	49,746	100.0	+ 3,992	+ 8.7	45,754	100.0	102,000	100.0	48.8
売上原価	29,900	60.1	+ 2,469	+ 9.0	27,430	60.0	61,100	59.9	48.9
販管費	12,427	25.0	+ 836	+ 7.2	11,590	25.3	27,200	26.7	45.7
セグメント利益	7,419	14.9	+ 686	+ 10.2	6,733	14.7	13,700	13.4	54.2

- 販売数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）
→ **40.2億錠** 対前年同期**4.4%増加** 通期計画進捗率**23.6%**
- 生産数量実績（東和薬品単体、錠剤・カプセルのみ）
→ **40.9億錠** 対前年同期**6.2%増加** 通期計画進捗率**22.7%**

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

6

スライド6ページをご覧ください。

「東和薬品ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高およびセグメント利益の前年同期比較について、
生産数量の増加に伴い市場への供給数量が増加したことと、
セールスマックスが改善して単価も上昇したことにより、
売上高は前年同期比8.7%の増収、
セグメント利益は前年同期比10.2%の増益となりました。

計画との比較について、
売上高は、追補品の拡売が想定よりも進まなかったことにより、若干低調に推移、
セグメント利益は、研究開発費等の販管費の費消が遅れたことにより、
想定よりも増加しました。

東和薬品単体の販売数量は40.2億錠で、対前年同期4.4%の増加となりました。

また、生産数量は40.9億錠で、対前年同期6.2%の増加となりました。

2027年3月期第1四半期 決算概要（三生医薬ほか）

- 前年同期比・計画比：
売上高は、ニューアプリケーション事業において受注の遅れがあったことと、
医薬品事業において需要減少による失注が発生したことで、減収となり進捗率も低調に推移
セグメント損失は、売上高の悪化と、
国内健康食品事業において売上総利益率の改善施策が進まなかったことにより、減益で進捗率も低調に推移
- ニューアプリケーション事業での新規顧客開拓など業績回復に向けた取り組みを進めているが、
医薬品事業での失注の影響もあり今期セグメント利益は計画未達になる可能性がある
なお、連結業績への影響は限定的と見込んでいる

（単位：百万円，％）

	27/3 1Q実績				26/3 1Q実績		27/3 上半期計画		
	金額	対売上 高比率	前年同期 増減	前年 同期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	進捗率
売上高	6,234	100.0	- 790	- 11.3	7,025	100.0	14,700	100.0	42.4
売上原価	5,485	88.0	- 301	- 5.2	5,786	82.4	11,800	80.3	46.5
販管費	1,155	18.5	+ 56	+ 5.1	1,099	15.6	2,300	15.6	50.2
セグメント利益 (損失)	- 406	- 6.5	- 546	-	139	2.0	600	4.1	-

※のれん償却費は含みません。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

7

スライド7ページをご覧ください。

「三生医薬ほか」の決算概要について、ご説明いたします。

売上高は、ニューアプリケーション事業において受注の遅れがあったことと、
医薬品事業において需要減少による失注が発生したことで、
前年同期比11.3%の減収で、進捗率も低調に推移しました。

セグメント損失は、売上高の悪化と、
国内健康食品事業において売上総利益率の改善施策が進まなかったことにより、
減益で、進捗率も低調に推移しました。

ニューアプリケーション事業での新規顧客開拓など
業績回復に向けた取り組みを進めておりますが、
医薬品事業での失注の影響もあり、
今期のセグメント利益が計画未達になる可能性がございます。
なお、連結業績への影響は限定的と見込んでおります。

2027年3月期第1四半期 決算概要（Towa INT）

- 前年同期比：売上高は、米国でのニトロソアミン問題による主力製品の販売中断の影響が続いているものの、欧州BtoCで主力製品が伸びたこと、欧州BtoBで受託製造が増加したことにより、増収
セグメント利益は、増収と、欧州BtoBで売上原価率が低下したことにより、増益
- 計画比：売上高・セグメント利益は、米国で一部製品が想定よりも伸びなかったものの、欧州BtoBで受託製造が増加し、好調に推移

（単位：百万円，％）

	27/3 1Q実績				26/3 1Q実績		27/3 上半期計画		
	金額	対売上 高比率	前年同期 増減	前年 同期比	金額	対売上 高比率	金額	対売上 高比率	進捗率
売上高	15,612	100.0	+ 3,119	+ 25.0	12,492	100.0	29,500	100.0	52.9
欧州	10,548	67.6	+ 2,908	+ 38.1	7,639	61.2	18,800	63.7	56.1
米国	5,063	32.4	+ 210	+ 4.3	4,852	38.8	10,700	36.3	47.3
売上原価	9,994	64.0	+ 1,674	+ 20.1	8,319	66.6	19,400	65.8	51.5
販管費	5,612	36.0	+ 877	+ 18.5	4,735	37.9	10,700	36.3	52.5
セグメント利益（損失）	5	0.0	+ 568	—	- 562	- 4.5	- 600	- 2.0	—
期中レート（TTM） 1ユーロ	27/3 1Q 185.39円	26/3 1Q 163.80円	27/3 想定レート 177.00円	期中レート（TTM） 1ドル	27/3 1Q 159.49円	26/3 1Q 144.59円	27/3 想定レート 154.00円		

※のれん償却費は含みません。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

8

スライド8ページをご覧ください。
「Towa INT」の決算概要について、ご説明いたします。

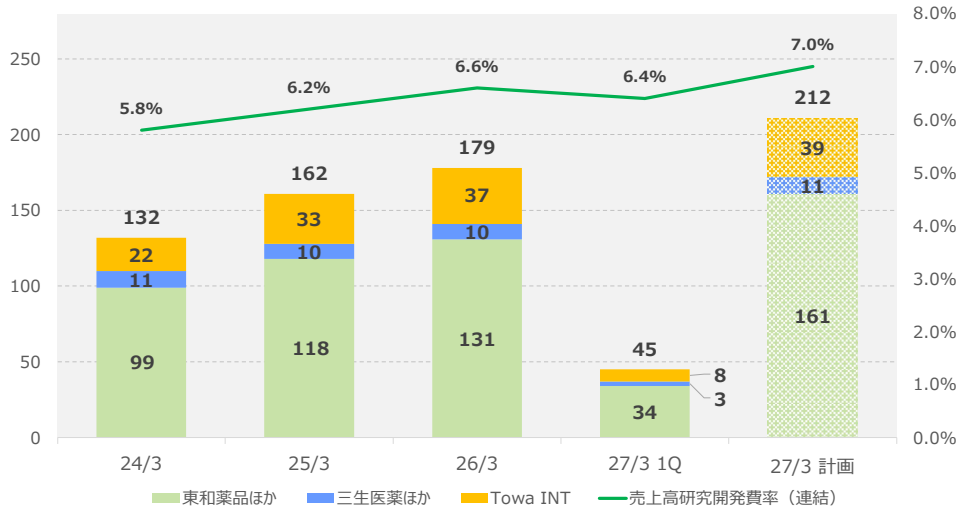
前年同期比較について、売上高は、
米国でニトロソアミン問題による主力製品の販売中断の影響が続いているものの、
欧州BtoCで主力製品が伸びたこと、
欧州BtoBで受託製造が増加したことにより増収となりました。
為替の影響もあり、前年同期比25.0%の増収となっております。

セグメント利益は、
増収と、欧州BtoBで売上原価率が低下したことにより、
増益となりました。

計画との比較について、売上高およびセグメント利益は、
米国で一部製品が想定よりも伸びなかったものの、
欧州BtoBで受託製造が増加し、好調に推移しております。

研究開発費（連結）

（単位：億円）



※グループ間取引消去後の数値を使用しております。

こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

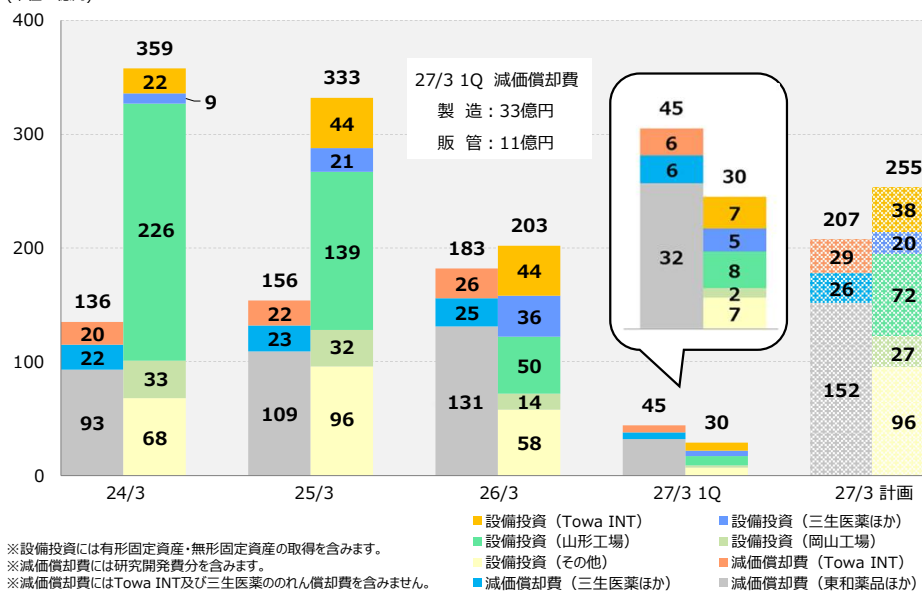
9

スライド9ページをご覧ください。
研究開発費の推移と計画との比較について、ご説明いたします。

「東和薬品ほか」における新製品開発の月ズレ等により、
連結で約45億円と進捗に若干遅れがあるものの、
通期では計画通りに着地する見込みとなっております。

設備投資・減価償却費（連結）

（単位：億円）



こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

10

スライド10ページをご覧ください。
設備投資・減価償却費の推移について、ご説明いたします。

「東和薬品」における工場設備導入の月ズレ等により、
連結の設備投資は約30億円と進捗に遅れがあるものの、
通期では計画通りに着地する見込みとなっております。

減価償却費は約45億円となっております。

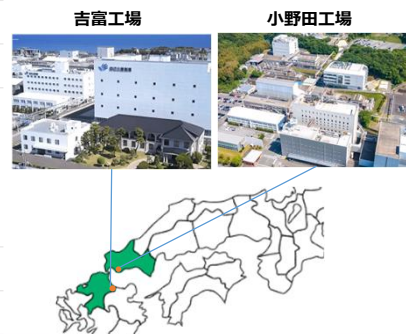
田辺ファーマファクトリーの株式取得および製造販売承認の承継について

● 田辺ファーマファクトリーの株式取得および製造販売承認の承継について、田辺ファーマと合意（7/3開示）

譲渡対象	①田辺ファーマファクトリー株式会社の株式取得	②17成分35品目の製造販売承認の承継
譲渡実行日	2026年11月末（予定）	2027年4月以降（予定）
備考	・2027年3月期の連結業績に与える影響等は精査中（取得価額は非開示） ・予定通り株式譲渡が行われた場合、貸借対照表は2027年3月期第3四半期末より、損益計算書は2027年3月期第4四半期より、連結対象とする予定	

● 田辺ファーマファクトリー株式会社の概要

代表者	古瀬 裕介
本社所在地	大阪府大阪市中央区道修町3-2-10
工場	小野田工場（山口県山陽小野田市） 様々な剤形に対応、原薬の海外輸出も行う 吉富工場（福岡県築上郡吉富町） 固形製剤量産拠点、自動化・DX化も進んでいる 両工場でFDAやEMAなど多数の海外認証を取得
従業員数	538名（2026年4月1日時点）
生産実績	15.6億錠（錠剤、2025年度）



こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

11

スライド11ページをご覧ください。

7月3日に開示した

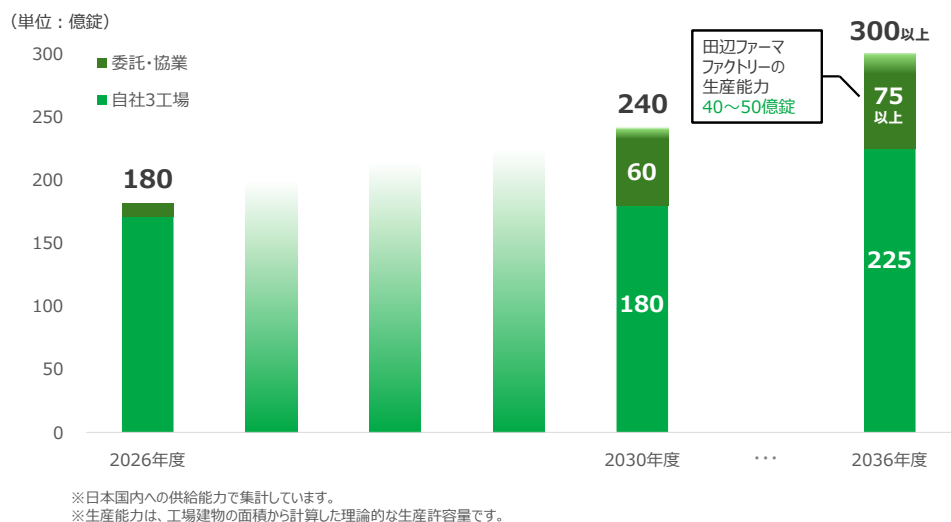
田辺ファーマからの田辺ファーマファクトリーの株式取得および製造販売承認の承継について、ご説明いたします。

田辺ファーマファクトリーの株式取得は2026年11月末、製造販売承認の承継は2027年4月以降を予定しております。

予定通り株式譲渡が行われた場合、貸借対照表は2027年3月期第3四半期より、損益計算書は2027年3月期第4四半期より、連結対象に含める予定としております。

生産能力／供給能力の向上

- 医薬品の安定供給のため、東和薬品3工場の生産効率化および協業によって、2030年度までに240億錠、2036年度までに300億錠以上の生産能力を目指す



こころの笑顔を、すべてのひとに。あしたの健康を、あなたのものに。

© Copyright 2026 TOWA PHARMACEUTICAL CO., LTD. All Rights Reserved.

12

続いて、スライド12ページにて
生産能力の中長期目標について、ご説明いたします。

医薬品の安定供給に貢献するため、
東和薬品3工場の生産効率化および協業によって、
2030年度までに240億錠、
2036年度までに300億錠以上の年間生産能力を目指してまいります。

最後に スライド13ページからスライド25ページにて、
参考資料を記載しております。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。
ご清聴いただきありがとうございました。

【質疑応答要旨】

※ご参考として、決算説明会における質疑応答の内容を要約したものです。

Q：東和薬品ほかにおいて、プラスグレル AG の進捗状況はどうか。また、6 月追補品の拡売が計画通りに進まなかった要因と今後の見通しを教えてください。

A：プラスグレルは計画通り進捗しているが、6 月追補品は進捗が遅れており、通期では多少の未達リスクがある。一方、既存品が伸びているため、こちらの売上高でカバーしたい。6 月追補品の一部製品では、安定供給や飲みやすさの観点から先発市場で流通量の少ない OD 錠のみを販売していた。当社の OD 錠の付加価値と営業力をもって営業活動を行ったが、市場価格が軟調に推移する中、短期的には医療機関から十分なお理解を得ることが出来ず想定通りに進まなかった。中長期的には、引き続き適正価格販売を進め、当社の安定供給の姿勢や患者視点の製品戦略をご理解いただくことで、当社製品への切替えを進めていく。

Q：OD 錠のみの販売により未達となった製品は、デスロラタジン OD 錠と推察する。季節性のある製品なので、6 月はあまり伸びないと思うが、花粉のシーズンには巻き返しが可能か。また、それ以外の 6 月追補品は計画通りなのか。

A：デスロラタジン OD 錠は花粉症の時期に向けて再度 PR を行うが、薬価改定前の時期にもなるため、急激な回復は難しい。また、その他の 6 月追補品については、適応不一致によって医療機関での採用が進んでいない製品もある。

Q：既存品の進捗について、26 年 3 月期 4Q 決算では限定出荷を解除しても戻らないという事象があったが、新年度になって薬価改定も経たことで、ある程度戻っているのか。

A：4 月の薬価改定のタイミングで医療機関での取扱い製品の見直しが行われた。当社製品への切替えが進み、現時点では計画通りに進捗している。

Q：生産数量・販売数量の進捗率が低めに見えるが、現状と今後の見通しはどうか。

A：生産については稼働日数の関係から下期偏重の生産計画となっているものの、若干未達気味の進捗である。市場の需要に合わせて生産計画を入れ替えたこと、山形工場の包装工程で想定よりも派遣社員の離職があり育成が必要となったことで、若干未達の進捗となった。180 億錠の達成リスクはあるが、2Q 以降は計画通りに進捗すると見込んでおり、大幅な未達にはならないと捉えている。なお、現時点では、販売数量や売上高への影響は軽微と見込んでいる。

Q：三生医薬について、ニューアプリケーション事業の遅れと医薬品事業の失注により減益となっているが、今後の見通しはどうか。

A：ニューアプリケーション事業は新規開拓に遅れがあるものの、計画通りに着地する見込みである。一方、医薬品事業の失注分の取り戻しが難しく、三生医薬のセグメント利益は未達になる可能性がある。

Q：三生医薬について、国内健食事業の粗利率改善はいつ頃から効果が現れるのか。

A：取引先との価格交渉が大きな取組み施策となるため、先方との合意次第である。現状、進捗が遅れ気味だが、通期に向けて改善を進めたい。

Q：欧州が好調に推移しているが、デュロキセチンの改良品が影響しているのか。

A：欧州 BtoB で受託製造が増加したことおよび現在注力している CDMO 事業で利益率の高い製剤開発が功を奏したことに加え、欧州 BtoC で新規開拓や新製品販売等が寄与したことにより、好調な推移となった。デュロキセチンのニトロソアミン対応について、欧州では一部の国で昨年 12 月 1 日から基準が厳格化したが、スペイン・イタリア・ポルトガル・フランス・イギリスで改良品の承認を取得している。ドイツは厳格化が 1 年延期となり、今後承認を取得する予定である。旧製品の消化が終わり次第、改良品の注文が増加すると想定しており、来期以降の業績への貢献が期待できると考えている。

Q：欧州の好調について、今後も継続するのか教えて欲しい。

A：CDMO 事業では大口先からの定期的な受注が可能だと見込んでおり、BtoC も大きなリスクはないと認識しているため、このトレンドが続くと想定している。一方、米国ではデフレがリスク要因となるため、病院市場への移行と注射剤の新製品を複数販売することで利益を確保し、持続的な成長を図りたい。

Q：田辺ファーマファクトリーの買収について、来期 PL への影響はどうか。25 年度は売上高が約 160 億円、営業利益が約 11 億円であったが、この水準を期待できるのか。

A：クロージングが 11 月末予定のため、現時点では回答を差し控える。

Q：後発医薬品製造基盤整備基金の公募条件が示されたが、田辺ファーマファクトリーの買収・長期収載品と GE の品目統合において活用できるのか。

A：田辺ファーマファクトリーの設備投資においても、本基金の活用を検討しており、現在応募に向けて準備を進めている。

Q：デリバティブ評価の見通しについて、1Q 時点で評価益が約 14 億円計上されており、通期計画に対しても上振れ要因になりそうだが、今後の見通しはどうか。

A：為替影響は為替介入等もあって見通しにくいだが、現状の円安トレンドが続けば、これくらいの規模感で推移すると考える。